

有効で安全な輸血療法をめざして

言うまでもなく輸血療法は疾病に対する治療法の一つです。治療法の有効性と安全性を追求するため、輸血療法では血液製剤、医療機関のシステムとスタッフ、輸血後の効果と副作用チェックなどの継続的な努力が必要です。医療機関の規模によって差があっても良いとは言えません。

今年度の夏の委員会では、金沢赤十字病院検査部の二木敏彦先生から「輸血医療の均てん化にチャレンジ 小規模医療施設における輸血医療の特徴とその支援」について講演を頂きました。これを参考に本委員会が行う小規模医療機関の「出張視察チェックリスト」を作り実際に使用することができました。

また、冬の研修会では、青森県黒石市国民健康保険黒石病院の西塚和美先生から「看護師として実践するPatient Blood Management」について講演を頂きました。看護師が頑張る輸血のチーム医療という具体的なイメージで、聴衆を元気づけるものでした。

輸血療法の有効性と安全性を目指して、血液製剤や検査の改良、医療機関の輸血システムの改善を続けられてきました。広島県の合同輸血療法委員会では、輸血療法の標準化を目指して医療施設へのアンケート調査を毎年行い、集計内容を公表してきました。

今年度の報告の重要な変更点は、病院名をつけてアンケートの内容を公表している点です。これにより各医療施設では、自施設がどんな状況にあるかを点検することができます。例えば輸血前後の感染症検査については、各医療施設が苦勞をされていることがわかります。達成できない項目があることは、できない理由があるのです。他の施設が達成できていれば大いに参考になると思います。報告書に記された表をそのような目でご覧下さい。輸血療法の標準化の後押しになることを願っています。

多くの医療機関が病院名公表を許可して頂いたことに感謝します。またご協力頂いた多くの関係者、調査をまとめて下さった方、多くの事務を処理して下さいましたスタッフの方に感謝を申し上げます。

2015年3月

広島県合同輸血療法委員会

高田 昇（広島文化学園大学教授）

目 次

第Ⅰ部 広島県合同輸血療法委員会 (H26. 7. 26) 1

- 1 概要
- 2 開催結果
(前年度活動報告等) 平成 25 年度の活動報告 (アンケート調査結果等)
～平成 26 年度事業の検討
(特別講演) 「輸血医療の均てん化にチャレンジ
小規模医療施設における輸血医療の特徴とその支援」
(意見交換) 各医療機関の取組状況報告及び意見交換

第Ⅱ部 広島県合同輸血療法研修会 (H27. 1. 31) 47

- 1 概要
- 2 開催結果
第1部) 「輸血療法に関するアンケート」調査結果報告等
第2部) ワークショップ「どうするんだ!? 輸血前後の感染症検査」
血液センター及び医療機関からの報告
第3部) 特別講演「看護師として実践する Patient Blood Management」

第Ⅲ部 今年度事業と次年度以降の課題 85

- 1 委員会事業の概要
(1) 広島県合同輸血療法委員会の開催
(2) 広島県合同輸血療法研修会の開催
(3) 県内医療機関における輸血療法の推進に向けた相談応需
(4) 幹事会の開催
- 2 「輸血療法に関するアンケート」調査報告 (詳報)
【集計資料】 単純集計 (「輸血用血液製剤供給量」別集計 (N=100))
医療機関別回答結果 (抜粋)
- 3 今後の課題

<参考資料 これまでの取組み>

- 参考1 平成20年度における「血液製剤使用適正化普及事業」の
まとめと展望について 187
- 参考2 広島県血液製剤使用に係る懇談会開催状況 189
- 参考3 広島県輸血懇話会の開催状況 190
- 参考4 広島県合同輸血療法委員会開催状況 (H22～) 191

掲載の資料につきましては、広島県HPにも掲載しますので、ご確認ください。

[トップページ](#) > [組織でさがす](#) > [健康福祉局](#) > [薬務課\(献血\)](#)

<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/59/h26goudouyuketukensyuukekka.html>